

# 第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会 第1回式典専門委員会 結果概要

## 1 日 時

令和元年9月11日（水）10：30～11：30

## 2 場 所

ウエディングプラザアラスカ 3階 エメラルド

## 3 出欠状況

出席者 18名

欠席者 なし

## 4 議事概要

### （1）委員長・副委員長の報告

委員長を笠島明委員に、副委員長を増田あけみ委員に委嘱したことを報告。

### （2）説明・報告事項

- ① 国民スポーツ大会の概要について
  - ② 国民スポーツ大会の式典関係概要について
  - ③ 第80回国民スポーツ大会総合開・閉会式の会場について
  - ④ 式典専門委員会について
- 事務局から①～④について説明。

### （3）審議事項

第80回国民スポーツ大会式典基本方針（案）  
事務局から説明。原案どおり可決。

### （4）その他

- ① 第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）総合開会式の視察について
  - ② イメージソングの歌詞募集について
- 事務局から①～②について説明。

## 【質疑等】

### ■説明報告事項

質疑等なし

### ■審議事項

#### (委員)

式典基本方針のなかで、オールあおもりの“あおもり”であったり、愛称の「青の煌めきあおもり国スポ」の“あおもり”であったり、“あおもり”という字がひらがなとなっているのはなぜか。また、県外開催について伺いたい。

#### (事務局)

あおもりのひらがな表記については、開催基本構想の基本目標ではひらがなを使用しており、それを受けて専門委員会等でもひらがなで表記している。愛称、スローガンについてもこちらの構想をもとにひらがなで応募いただいているので、ひらがなで表記している。

県外開催については、山梨県で馬術競技、宮城県で水泳の飛込が選定されている。国体、国スポでは、県内に施設がない場合、近県から会場を借りて開催しているが、馬術については、山梨県に馬術競技場があり、本県の馬術連盟や山梨県の馬術連盟からも開催について了解いただき選定となっている。水泳の飛込については、青森市宮田の新青森県総合運動公園の中に水泳場を造る予定だが、飛込の施設まで造ると建設費が高くなることに加え、維持管理等にも経費がかかるため、本県では飛込の施設は造らない方向で基本構想等を策定している。近県の施設を確認し、宮城県での開催について了解いただき選定となっている。

### ■その他（意見、質問等について各委員から）

#### (委員)

国スポの愛称やスローガンを見たときにとっても良いと思った。今、青森は縄文遺跡群の世界遺産登録に向けてもう一歩というところであり、青森の良さや特徴が十分に国民スポーツ大会や式典に活かされればとても素晴らしいと思う。海外からの観光客も増え、非常に注目されているので、そのなかで青森らしさがいろいろなところにカラーとして出ていけばとても素晴らしい大会になると思う。抽象的ではあるが今後そういったところも含めて企画をお願いしたい。

#### (委員)

前回のあすなる国体では、国体が終わってからも、国体に参加した方々が中心となって、社会体育や生涯体育が非常に充実していったという経緯がある。現在、青森のいろいろなスポーツが盛んになったのも、あすなる国体が契機となったのではないかと思うので、今度の国スポではまたもう一歩さらに進んで青森の良さが全国に発信され、元気のある青森になるのではないかと非常に期待感をもっている。

(委員)

まだ先だと思ってお話しを聞いていたが、計画を見ると結構時間がないと思った。私自身、国体については子どもの頃の思い出があるので、今の子どもたちにもそういう経験をさせたい。自分自身の仕事上でも計画のなかに組み込んで、楽しみながらお手伝いさせていただきたい。

(委員)

イメージソングの歌詞募集について、今現在どの程度の応募があるのか、今後このような募集をするときにどのような周知方法をとっていくのか伺いたい。

(事務局)

応募状況については、まだ三桁はっていない。学校を通じての募集も行ったので、夏休みが終わって学校からの応募もあると思われる。現在、さらに応募者が増えるよう継続してPRを行っているところである。今後このような公募を行うことがあれば、さまざまな機会、パブリシティを使って募集していく。

(事務局)

歌詞募集に関しては、7月中旬から県内だけでなく、全国の様々な媒体を使って募集し、懸賞のサイト等にも載せている。昨年度募集した愛称・スローガンでは、学校はもとより全国にも発信し、約7000通の応募があった。今回の歌詞募集については、楽曲を事務局が提供し、そこに歌詞をつける形で募集をかけているが、なかなか集まっていない。今回この委員会の場で紹介したのは、改めて掘り起こしをする目的があり、委員の皆さんで知り合いがいれば、声をかけていただきたい。応募できるのはアマチュアのみだが、ぜひ楽曲を聴いてもらい作詞していただければと考えている。

(委員)

オリンピック、インターハイ、国体も総合開会式が成功裏に終わると、大会の約7割～8割成功したのではないかと感じる。残りの2～3割は地元選手の大会の成績であり、地元の選手が良い成績を残さなければ県民の士気が上がらない。9つの専門委員会が準備される中で式典専門委員会は大きなウエイトを占める委員会だと思うので、その委員会の一委員として、微力ながら式典の成功に少しでも力になれるよう頑張りたい。

(委員)

近年宮城、秋田、岩手と国体が行われてきたが、その中で式典の専門委員会に関わってきた方々に話を聞くと、スムーズにいったところ、苦労したところ、お金をかけていただいたところ様々だが、共通するのはやはり大変だったとのことである。実際に動くのは我々ではなく、これを運営する多くの高校生や一般の方なので、できるだけ不自由のない苦労しない式典であってほしいと願っている。今後の情報収集、綿密な計画にご配慮いただきたい。

(委員)

NHKでは、主催団体の日本スポーツ協会と毎年国体の放送に関する放送権契約を結んでいる。民放は契約を結んでいないので、その責任においてきっちりとその役割を果たしていきたいと考えている。本部のスポーツセンターと連携をとりながら、どのような形で滞りなく開会式の全国放送をやらしていただけるかということだが、放送部長は数年おきに替わるため、担当するのは私の後任の後任くらいになると思うが、きっちりと引き継ぎながら役割を果たしていきたいと思う。

(委員)

国スポ大会が終わって約1ヶ月後に全国の障害者スポーツ大会が開催される。大会準備については、今年度から準備連絡委員会を障害福祉課で設置し、9月に第1回委員会を開催する予定であり、今月から本格的に検討していく。皆様にも御協力をお願いすることもあるかと思うが、その際にはよろしくお願いしたい。

(委員)

大会開催に当たっては、全国から参加者や観戦者等、多くのお客様がお見えになる。青森滞在中、快適にお過ごしいただくという視点も持ちながら様々な取組を進めていければと感じている。

(委員)

来年東京オリンピック2020が始まるが、私自身開会式を楽しみにしている。今回2025年のあおもり国スポの式典に参加できることはとても光栄であり、ちょっとでもお手伝いできればと思う。48年ぶりの国スポになるわけだが、あすなろ国体がどんなものだったのか歴史も少し学んでいきたい。

(委員)

私自身、現在、高校の新体操部の監督であり、以前岩手で教諭をしていた時には、1999年の岩手インターハイの開会式を担当させていただいた。また、青森大学のリオのオリンピック閉会式でのパフォーマンスに関わった経験もある。男子新体操は、2008年大分国体以降、国体競技から外されていたが、2023年佐賀国スポから復活することが決定し、2025年のあおもり国スポでも競技が実施されることとなった。式典は大事だと思っているので、競技強化と並行することになるかと思うが、協力していきたい。

(委員)

メイン会場が新しい会場となるので、私自身もまだイメージがわいていないところもある。新しい会場での開催ということで、会場を使うに当たって今後いろいろな点が見えてくると思う。数年間いろいろなイベントを繰り返しやっていくなかで、新しい会場を活かした式典の形ができあがり、よりよい式典の開催につながればありがたい。また、今年度から先催県の情報収集を行うとのことだが、他県のいいところを取

り入れるだけではなく、必要ないところは精査して本県のためになるものを見つけてほしい。先催県からいい情報を得て6年後に結びつけてほしい。

**(委員)**

あすなる国体のときの青森県のエネルギーは大きかった。人材面としても競技面における向上としても、当時の方々が残してくれた遺産は、ハード面もソフト面も含めて青森県にとっては相当大きかったと思う。私は直接その方々の活躍を見たわけではないが、自分で競技に携わったときや職場に勤めたときに、その当時の想いや苦勞、どうやって生徒・学生を育て大会に結びつけていったか等、熱い想いを聞いた。この歳になってまた青森県で国スポが開催されることとなったが、国スポに関わることとなる高校生にとっては感動的なよい経験になるだろうし、自分自身式典に関われる喜びを感じてやっていければと思う。

**(委員)**

前回のあすなる国体では、私は幼稚園の子どもたちと一緒に演技させていただいた。幼稚園児は黄色いベレー帽をかぶり、黄色いコスチュームを着けていたが、そのシーンや観客の歓声は昨日のここのように思い出される。式典に参加するボランティアや演技する一人ひとりにスローガンが響いていけるような式典にしていきたい。

**(委員)**

前回のあすなる国体の時は青森東高校の音楽教師で、合唱隊を実際に指導し、毎週のように青森市安田の開会式会場で練習した。その時「青森国体の歌」を作曲したのが間宮芳生（まみやみちお）氏であり、ファンファーレは国立音楽大学教授の田中利光（たなかとしみつ）氏だったと記憶している。たくさんの時間、人、お金をかけてやったものは、私たち合唱としても、様々なところで財産としてずっと残っていると思う。今回の国スポもたくさんの年数と予算と人をかけてやるので、そのときに関わった県民にとって財産となるような良い国スポになればいいと思っている。

**(委員)**

この委員会でやるべきことやスケジュールが事務局から示された。これに沿って着実に成功に向けて皆さんと協力して進めていきたい。

**(委員)**

今後のスケジュール等が示されたが、各種式典が滞りなく進められるよう、警察の立場からアドバイスしていきたい。

**(事務局)**

資料17ページのスケジュールでは、式典運営、式典音楽、式典演技の考え方を作ることになっているが、演技内容や音楽をある程度今の時点からイメージした上で構想や計画を作りたい。式典音楽だと音楽隊の構成案であるとか、式典演技だと、県内

にプロデューサーやそういった知識がある人の情報であるとかを委員の皆さんから事務局へ教えていただきたい。地元の人に地元らしいものをプロデュースしてもらい、作ったものを地元の子どもや大人と一緒に盛上げていくということを今回基本方針としている。開会式、閉会式の成功が国スポの一番の成果になると思うので、ぜひ皆さんの経験や知識を事務局に教えていただき、早め早めに進めて、いい国スポにしていきたいのでよろしくお願ひしたい。

以 上